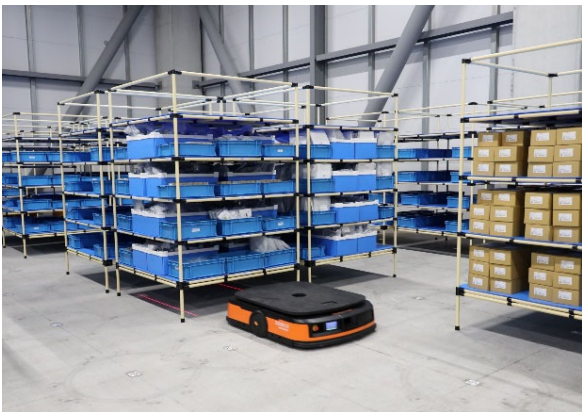


物流拠点「首都圏 DC」を開設

物流 DX・ロボティクス化を推進し“物流の 2024 年問題”に向けた安定供給体制の構築を実現

YKK AP 株式会社（本社：東京都千代田区、社長：魚津 彰）は、首都圏エリアに向けた住宅用商品の供給体制を強化するため、配送拠点「ESR 加須ディストリビューションセンター2」内に、物流拠点「首都圏 DC（Distribution Center）」（埼玉県加須市）を開設し、10月2日から稼働します。

「首都圏 DC」では、物流 DX・ロボティクス化を推進し、“物流の 2024 年問題”に向けた安定供給体制の構築を実現します。



（左）GTP エリアの棚搬送型ロボット （右）「首都圏 DC」が入る「ESR 加須ディストリビューションセンター2」外観

物流業界では人材不足や長時間労働、宅配物の急増や環境問題などさまざまな課題があります。こうした課題に対し、当社では 2016 年度から配送効率を高める新型輸送パレットの開発に着手し、2019 年度からは国土交通省が推進する「ホワイト物流」推進運動に賛同するなど、物流効率化や生産性向上を進めてきました。そしてこの度、首都圏エリアの供給体制を強化するため「首都圏 DC」を開設します。

これまで、1 都 7 県の首都圏エリアへの供給は、全国各地の製造拠点や物流拠点から商品を輸送していましたが、在庫保管し受注に応じて出荷する保管型物流拠点「首都圏 DC」を首都圏エリア内に開設することで、トラックドライバーの夜間・長距離輸送の回数を削減します。そして、アイテム別や納期別など、細分化した需要予測に基づき適正在庫を管理し、リードタイムを確保します。これにより、リードタイム別に適切な輸送方法を選択し、輸送距離 700km 以上は輸送方法をトラックから鉄道や船舶に転換するモーダルシフトを推進。「首都圏 DC」開設により各物流拠点の在庫バランスの適正化を図り、モーダルシフトによる 2025 年度の CO₂ 排出量 30%削減（2022 年度比）を目指します。

構内作業においては棚搬送型ロボットを導入し、作業者のいる場所へロボットが在庫保管棚を運んでくる GTP（Goods To Person）システムを運用します。これにより定位置にしながらピッキングと 100 トラック方面の仕分けを一度に実施し、構内作業の省人・省力化を実現します。

YKK AP では、物流の効率化や生産性向上に向けた取り組みを加速し、持続可能な物流を目指します。

「首都圏 DC」の特長

- 在庫管理の効率化によるトラックドライバーの夜間・長距離輸送の回数を削減
- リードタイムを確保しモーダルシフトを推進、CO₂ 排出量削減に貢献
- 仕分けの細分化を実現した GTP システムの導入による構内作業の省人・省力化

■ 施設内の様子



1階 バース



(左) GTP エリア全景 (右) 仕分け作業の様子

■ 施設概要

| | |
|------|---|
| 名称 | 首都圏 DC |
| 開設 | 2023 年 10 月 2 日 |
| 所在地 | 埼玉県加須市下樋遣川 6000-4 「ESR 加須ディストリビューションセンター2」内 1 階・2 階の一部 |
| 所長 | 吉村 清隆 |
| 使用面積 | 26,202 ㎡ (1 階 15,094 ㎡、2 階 11,108 ㎡) |
| 設備投資 | 2 億円 |

<参考情報>

「首都圏 DC」開設までの道のりと詳細を紹介しています。

2024 年問題の解決を目指す物流拠点「首都圏 DC」。

持続可能な物流へ向けた取り組みとは

<https://prtimes.jp/story/detail/Gx03M3FkzdB>

